

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170400956		
法人名	医療法人福和会		
事業所名	グループホーム朝風 I		
所在地	札幌市手稲区曙11条2丁目3番11号		
自己評価作成日	2025年11月20日	評価結果市町村受理日	2026年1月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action.kouhyou_detail_022_kani=true&JigvosyoCd=0170400956-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	2025年12月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム朝風は医療法人福和会の広大な敷地内にありケアハウス、立花病院も隣接しています。病院が有ることで夜間なども早急に医師の診察を受ける事が出来る点は安心感があると思います。庭園には季節の花々が咲き、春にはお花見、夏にはサクランボ狩りを行い、裏庭の畑ではトマトやジャガイモなどの野菜を育て収穫し日々の食卓に出しています。夏と秋のバスレクリエーションではご家族様も一緒に外出したり美味しいお食事をいただいたりとても喜ばれています。近隣の幼稚園との交流もあり子供たちの触れ合うことで元気をもらっています。立花病院の大きなクリスマスツリーに飾りつけをしたりお正月飾りをしたりと季節感を感じられる行事もたくさん行っています。介護理念の1. ゆっくり2. いっしょに3. 楽しい暮らしを念頭に入居者様もご家族様も安心して穏やかに暮らせるよう支援に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

手稲曙地区にある医療法人が母体の2階建て2ユニット18名が暮らす事業所である。窓からは1年を通じて四季の移ろいや自然の美しさを感じられる景色が見渡せる。家庭と同じようにリラックスした時間を過ごしながら、職員が利用者一人ひとりのペースに合わせて支援することで毎日明るい笑顔が溢れている。利用者ごとに職員が日々の生活の様子と身体状況を家族へお便りでも知らせたり、面会時に状況を説明していることで家族の安心が得られている。また、運営法人が医療法人であるため緊急時には速やかに適切な医療が受けられることや看護師を職員として配置していることも、利用者や家族の安心につながっている。誕生日には該当する利用者の希望を事前に聞き、食事に取り入れ提供している。事業所内の楽しみのほか、ユニットごとの外出では法人の車両で小樽や石狩方面などへ外食を兼ねてドライブをするなど、利用者が楽しめる企画も多い。地域との交流の機会もあり子供供神輿が来た際には利用者が賽銭を渡して子供と交流したり、近隣の幼稚園児との交流の機会もある。運営理念の「ゆっくり・一緒に・楽しい暮らし」が実感できるよう職員は生活の質の向上と自立支援のために利用者本位の介護を実践している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(朝風 I)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に根差した穏やかな暮らしを大切にし利用者の命と心のケアと家族の心身の緩和に努める事を法人の理念としています。入居者様と様々な事を一緒に笑い笑顔で暮らせるように日々のケアに取り組んでいます。	職員は入職時に「ゆっくり・一緒に・楽しい暮らし」の理念を学び、日々の介護で理念にそった支援を行っている。職員のネームプレート裏に理念カードを携帯している。契約時に利用者と家族へ説明をしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入して、総会にも出席しています。近隣の幼稚園の子供達や神社のお祭りの子供神輿に来てもらったりと地域と入居者様が交流の機会を持てるよう努めています。	町内会長や班長から地域の情報を得ている。区の行事で事業所に10名の見学者が来ている。子供神輿に利用者が賽銭を入れ、子供と交流する機会もあり、地域の一員として生活を営んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターの活用や運営推進会議などで地域の方に支援内容などを報告し認知症への理解を深めてもらえるよう取り組んでいます。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方やご家族様に日々の支援内容等を報告し意見交換も行っています。ご家族様からの目線でみた感想などは支援の参考にしています。	会議に関係者が出席し、事業所の活動報告や事故報告、利用者入退去、職員入退職と異動を報告している。資料を添付し熱中症と食中毒の説明をしている。参加者の意見も記録しており、地域包括支援センター職員から丁寧な報告をしていると評価を受けている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護申請、要介護区分変更の件など市の担当者と連絡を取り合い協力関係を築いている。分からない事や疑問点などは担当者に連絡し早急に解決するようにしています。	主に管理者が電子申請で報告したり、おむつサービスの申請や保護課の調査に応じるなど、行政との協力体制を築いている。区の管理者会議にも積極的に参加し交流をしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束廃止委員会を開催し、身体拘束に対する正しい知識を習得し職員間で話し合う機会を設けています。夜間のみ防犯上の理由から玄関の施錠を行っています。	身体拘束廃止に係る指針に基づき委員会を定期開催している。身体拘束に関する研修では高齢者虐待について学び、年度末までに2回目の研修を予定している。身体拘束の必要がある場合の身体拘束に関する説明書と同意書を用意してある。	今年度の2回目の研修の実施と、身体拘束に関する書類の整理に期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修等に参加し習得した知識や内容を定期的に開催している虐待委員会で報告し、虐待の片鱗を見逃す事のないよう職員間で話し合う機会を設けています。		

グループホーム朝風

自己評価	外部評価	項目	自己評価(朝風 I)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や資料で成年後見制度等について学ぶ機会を設け知識を深めるよう努めています。実際に必要な場面では速やかに対処出来るよう準備が必要であると考えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族に説明する時は難しい専門用語などは分かりやすい言葉に変えて説明するようにしています。疑問点などあるか必ず尋ね十分理解し納得して頂けるよう努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議では必ずご家族様の要望等を伺っています。面会に来られた際やお電話などでお話し細かいニーズ等も把握出来るよう努めています。	発語ができる利用者が多いため希望を聞き、可能な事から実現している。今年度は希望のあった温水洗浄便座を設置している。家族の訪問や電話連絡時に要望を確認し職員に周知している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見に耳を傾け、必ず全員の意見を聞くようにしています。必要ならば話し合う機会を設け、改善出来る事は速やかに対応しトツプダウンではなく職員の意見を反映させています。	日々業務中に意見を出し合っている。時間のない場合はノートに書いて後から管理者が確認している。職員の希望休日を優先にシフトを作成し、サービス残業をしない職場環境を整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や好意で日々の業務が成り立っています。職員の高齢化や退職者の増加もあり、やりがいや向上心を持つ事ができ良いケアが行えるようにするには職員の補充が緊急課題です。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修等に参加出来るよう努めています。難しいケアに直面した時は職員間で意見交換したりSNSを活用したりしてスキルアップを図っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	手稲区の管理者会議に出席し、交流の機会を持っています。毎回テーマを決め勉強会や意見交換を行い良いものは日々の業務に取り入れるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(朝風 I)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まずご本人のお話を傾聴し、出来るだけご本人の希望に添えるようにするにはどんな支援が必要かを考えます。常に目配りし声掛けをすることで安心感を持ってもらえるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	まずはご家族様の考えやご希望を聞くようにしています。不安点や疑問点は納得されるまで丁寧に分かり易く説明することを心掛けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にご本人やご家族と面談の機会を持つようにしています。その時の様子や以前いた施設やケアマネジャーに連絡し必要な情報、足りない情報を聞く事でまず必要としている支援が何かを見極める判断材料にしています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ない事はさりげなく支援しご本人が出来そうな事は手伝ってもらっています。お互いが助け合って生活していると実感出来る場面を作るようにしています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や外出、外泊の支援や施設の外出レクなどにはご家族の参加もお声掛けしています。お便りなどで施設での様子などをお知らせし施設の運営にもご支援ご協力頂けるようお願いしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者本人や職員がお手紙を書いたり、気軽に訪問してもらえるような環境づくりに努めています。	電話の取り次ぎや手紙の投函で関係が途切れないよう支援をしている。家族と馴染みの美容室へ行ったり、買い物や食事に出かけている。道外の妹宅へ泊りがけで行く場合の支度を手伝うなど、関係が継続できるよう支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操や余暇活動は出来る限り全員参加で行うようにしています。個々の性格なども考慮した座席配置にしたりトラブルが起きそうな時は必ず職員が間に入り孤立しない雰囲気作りにも努めています。		

グループホーム朝風

自己評価	外部評価	項目	自己評価(朝風 I)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	立花病院に転院された方は病棟に行く機会があった時には顔を見に行くようにしています。ご家族にお会いした時には近況を伺うお声掛けをしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人との関りの中での会話などから何を望んでいるのかを把握するようにしています。出来る限り本人の意向に添えるよう努力しています。	意思疎通の難しい利用者とは日々の状態と表情で思いや希望を把握している。利用者ごとに日常動作(ADL)調査表や基本情報を定期更新し、意向の把握をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴などをご本人、ご家族、ケアマネージャーから聞き取りを行いライフストーリーを作成し職員に周知しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の健康チェック、入浴時は身体観察も行い早期の異常発見に努めています。いつもと違う事や特変などがあれば入居者個人のノートに記載し職員に周知しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者別受け持ち担当職員がモニタリングを行い、担当者会議にて現在のご本人に必要なケアの在り方を話し合っています。ご家族が面会に来られた時は必ずお声掛けして要望を聞きケアプランに反映させています。	計画作成担当者がモニタリング後に日々の生活記録と個人ノートを参照し、更に職員全員の意見と利用者や家族の意見と取り入れて短期3か月、長期6か月の介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子気づき等は個別記録や個人ノートに記載する事で情報共有し、ケアプランの見直しに活かしています。ケアプランを基に実践し、モニタリングで評価しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今現在どんな支援が必要かを考え、不可能に思われる支援でも見方や発想を変えたりする事で可能になる事もあるかも知れないので柔軟な対応が出来るよう努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣幼稚園の子供達や地元の神社の子供神輿を施設に迎え交流する事によって地域との繋がりを感ずる事が出来るよう努めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人に異変があった時は速やかに主治医に相談し適切な医療を受けられる体制を整えています。希望があればご家族も一緒に受診に同行して頂いています。	法人の病院から訪問診療を毎月受けており、更に受診でも経過を見てもらっている。職員の看護師が毎週健康管理を行い24時間対応の医師と連携し適切な医療を受けられる体制を築いている。	

グループホーム朝風

自己評価	外部評価	項目	自己評価(朝風 I)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在看護師が管理者をしており介護職員の気づきや報告を受け適切な処置や受診の判断をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	立花病院と医療連携しており迅速にスムーズに入院出来る体制が出来ています。入院している病棟とも連絡を取り合い情報交換し退院後も施設で安心して暮らせるように環境を整えたり場合によっては福祉用具を手配するなどしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りはしていない事、重度化した場合の対応について説明しています。入居後も看取りについて段階的に家族と話し合う機会を作り不安を少なく出来るよう支援しています。	契約時に「重度化した場合における対応について」を取り交わしている。医師の判断に基づき医療行為が必要になった場合や経口で栄養が摂れない場合は家族と相談し、法人の病院や介護福祉施設への移行支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	立花病院と医療連携を取っており、24時間体制で対応しています。看護師から応急処置や初期対応の指導を受けられる体制となっています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に立花病院と連携し訓練を行っています。防災に日には電気が使えない事を想定して入居者も一緒に行動したり防災用品の点検も行っています。食料・水も備蓄しています。	今年3月に地震発生後の水害訓練を行い、11月に夜間想定火災訓練を行っている。災害備蓄品は確保しており、災害時は法人から応援が来ることになっている。避難場所も家族へ周知している。	訓練の結果も運営推進会議等で報告することが望まれる。また、災害訓練の記録を見直すなど書類の整理に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な言葉づかいでプライバシーに配慮した声掛けを行っています。	職員は研修で言葉がどのように利用者に影響を与えるかを学び、利用者の尊厳を守ることを重視して話しかけている。個人記録は適切に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中でご本人の希望を聞いたり、訴えに耳を傾け言いやすい雰囲気づくりを心掛けています。選択できるような声掛けを行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	様々な活動への参加や過ごし方はご本人の選択に任せています。危険性がなければご本人の意向を尊重しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1回訪問理容があり、どのような髪形にしたいかご本人に聞き理容師に伝えていきます。ご本人の希望があれば行きつけの美容院に行けるよう家族にお願いしています。		

グループホーム朝風

自己評価	外部評価	項目	自己評価(朝風 I)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日や行事がある時は特別食を用意し誕生日はご本人が食べたい物を食べれるようにしています。配膳などは当番制にして手伝ってもらっています。	利用者にとって食事は大切な喜びのため、本人の望む食材や料理が提供できるよう支援をしている。生寿司を出前したり、外出行事に外食を兼ねたり、美味しく味わえる機会を作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量は毎食確認し水分は飲み切るよう声掛けを行っています。食事・水分摂取量が少ない日が続いた場合は主治医に相談し指示を得ています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全員毎食後必ず口腔ケアを行っています。自立度に合わせて声掛け、見守り、介助を行い義歯洗浄は週2回職員が行っています。その際義歯の状態も確認しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを基に失敗のないようトイレ誘導、声掛けを行っています。	全員の排泄記録を確認し、利用者ごとの経過時間や仕草を見ながらトイレへ誘導している。夜間もトイレで排泄の支援を行い、利用者の自尊心を大切にしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の運動や提供された水分は飲み切るよう声掛けを行っています。毎日排便確認行い、数日排便がない時は看護師や主治医に相談し必要であればGEや薬を処方してもらい内服しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間は決まっているが出来る限りご本人の希望に沿った入浴が出来るよう支援しています。	1人週2回の入浴時間は職員の介助や見守りで気持ちのよい入浴となるよう支援をしている。湯上りは保湿のためボディークリームを塗り、麦茶や水で水分を補給している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝までどこでどのようにして過ごすかはご本人に任せています。気持ちよく眠れるようにッドメイキングを行い静かな環境を作るようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者別に処方箋はファイルしてあり、いつでも見れるようになってます。配薬表を作成し与薬する職員がその都度確認しています。新しい薬が処方された時は数日間内服後の様子を観察しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食卓を拭いたり、配膳、洗濯物を畳むなど負担がかからない範囲でご本人の特性を活かし役割活動として参加してもらっています。やりがいや楽しみに繋がるよう支援しています。		

グループホーム朝風

自己評価	外部評価	項目	自己評価(朝風 I)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別の希望に沿っての外出は難しいのが現状だが、家族との外出は積極的に推奨している。施設全体で外出する時は普段行けないような場所や入居者の希望も鑑みつつご家族の協力を得ながら行き先を決めるようにしています。	中庭の花や畑の野菜の生育状況を見るために戸外に出ている。レクリエーションとして小樽フェリー乗り場やさとらんど、紅葉山公園、外食ツアーなどへ利用者の体調や体力を考慮しながら外出している。家族同行で墓参や結婚式に参列した利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	貴重品は紛失などトラブルの原因にもなるので職員もしくは家族が管理しています。しかし将来コンビニなどでお菓子や日用品を購入するような買い物レクのような事が出来たらと考えています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話で話せるよう支援しています。手紙を書ける方には書いてもらい、郵送しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間には分かり易いように張り紙で表示しています。室温や湿度などは定期的に確認し不快感のないよう配慮しています。壁には装飾や入居者の作品等を展示しており季節感を演出しています。家庭的な雰囲気になるよう工夫しています。	暖かな共用空間は観葉植物や飾りつけで落ちつける家庭の雰囲気が感じられる。ソファがあり、ゆったりと腰掛けテレビを見ることができ、窓からは四季折々の景色が見渡せ、居心地よく過ごせる場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや食席は会話がしやすく個々の身体に合わせて配置しています。自由の過ごせる空間作りを意識しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で大切にしていた物や思い出のある物は持ってきて頂きご本人が気持ちよく過ごせるように配慮しています。	介護ベッドやカーテン、照明器具が備え付けられている。自宅で使い慣れた家具やソファ、テレビ、仏壇や親族の写真を飾っている。大切にしている物を身近に置き、安心して自分だけの住まいとして暮らせる部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、浴室、トイレなど手すりを設置して安全かつ自立して歩行できるようにしています。暖房もやけどしないようにオイルヒーターを使用し、今後ウォシュレット便座も導入予定となっています。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170400956		
法人名	医療法人福和会		
事業所名	グループホーム朝風Ⅱ		
所在地	札幌市手稲区曙11条2丁目3番11号		
自己評価作成日	2025年11月20日	評価結果市町村受理日	2026年1月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム朝風は医療法人福和会の広大な敷地内に立っており、ケアハウスも隣接している。春は敷地内で桜を見ながらのお花見、外でお弁当を食べている。夏はさくらんぼ狩りを敷地内で行っている。畑できゅうりやトマト、さつまいもを植えて収穫した野菜を食べている。年2回バスレクレーションでさとらんどや小樽フェリー乗り場にあるレストランで外食している。年2回近隣の幼稚園の園児の訪問や秋に山口神社のお神輿が来て、子供達とふれあっている。ご家族との外出や外泊も支援もしている。職員は利用者が笑顔で過ごせるように、相手の気持ちに合った支援を心掛けている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action.kouhyou_detail.022_kani=true&JigvosyoCd=0170400956-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	2025年12月12日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(朝風Ⅱ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者の命と心のケアと家族の心身の緩和に努める事を法人の理念としている。一緒に楽しい暮らし、地域に根差して生活できるように日々取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入して、総会にも出席している。近隣の幼稚園の年長さんとの交流している。山口神社のお神輿が来たり、地域交流の機会を持っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターの活用や社会福祉協議会のボランティア活動など地域の資源についてお話ししている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告や事故報告も行い、ご家族からの意見や要望を伺っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護申請、要介護区分変更、札幌市おむつサービスの受給の件など市の担当者と連絡を取り合い協力関係を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設け、指針の作成、3か月毎の委員会開催している。職員の勉強の場とし、研修にも参加しており拘束のないケアを実施している。夜間のみ防犯上の理由で玄関の施錠をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社外で実践している研修に参加している。研修報告を抑制委員会で周知している。		

グループホーム朝風

自己評価	外部評価	項目	自己評価(朝風Ⅱ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で成年後見制度について学んでいる。実際に必要になった時に、迅速に支援できるように努めていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所、退所時利用者と家族に十分な説明と話し合いをし、理解、納得して頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	お電話や面会時ご家族と話す時間を持っている。利用者にも常に意見を伺い、希望に沿うように努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見を受け、他職員に意見を聞き、反映した方が良いことは変えている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境、条件について代表者に報告し改善点について話している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社外研修に参加する機会を設けている。日々のケアの中で、改善点は指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	手稲区の管理者会議に2か月に1回出席し、交流の機会を持っている。		

グループホーム朝風

自己評価	外部評価	項目	自己評価(朝風Ⅱ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々利用者の要求は聞いている。出来る事、出来ない事を説明している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居受付は各グループホームの管理者が順に担当している。施設見学時に不安な事や要望を聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居面談時にご家族と本人の要望を伺い、ケアプランに反映している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の盛り付けや洗濯たみ等、利用者が出来る事を役割と担っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の支援や外出、外泊の支援をしている。外出レクにご家族にも参加して頂くよう支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙を書く支援や、電話で話せるよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操、余暇活動等一緒に活動するように支援している。食席やソファの席も気の合いそうな方を近くにできるようにしている。		

グループホーム朝風

自己評価	外部評価	項目	自己評価(朝風Ⅱ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	立花病院に転院された利用者のご家族に会う時、近況報告を受けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の意見は常に聞いている。ご自身で言葉に出来ない方は、ご本人の表情や行動でくみ取る努力をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にライフヒストリーを記入して頂き、生活歴をご本人、ご家族から聞き取りしこれまでの生活を把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日健康チェックし心身状態を確認している。出来る活動の支援をしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	管理者中心にモニタリングを行い、他職員と必要なケアについて話し合っている。ご家族、ご本人からの要望を伺い介護計画に反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画書に基づいた支援をしている。身体状況の変化があれば都度職員間で話し合い、計画書の修正をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	2か月毎に計画書の見直し、ニーズに対応するように支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣幼稚園との交流会を年2回、山口神社のお神輿見学年1回など、交流の機会を設けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要時主治医を受診している。状況に応じて精神科医や皮膚科医も受診している。協力医療加算会議で医師に健康状態について相談している。		

グループホーム朝風

自己評価	外部評価	項目	自己評価(朝風Ⅱ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に2回午前中に看護師が勤務しており、健康状態の管理をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ケースワーカーを中心に病棟看護師に情報を報告し、スムーズに入院出来るようにしている。入院中の状況を共有し、早期退院に繋げるようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りはしていない事を伝え、ホームで生活が出来なくなった時の事を確認している。要望の変化もあるので、必要な時にご家族に確認している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	隣接している病院と医療連携を取っており、急変時は日中、夜間共に診察できる体制になっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災用品の点検や火災訓練、洪水訓練、地震訓練をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけは常に配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	余暇活動や誕生会など利用者の意向に沿うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課は決めているが、一人一人の状況に合わせて柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1度訪問美容が来訪している。朝の洗面時化粧する方には必要な支援をしている。		

グループホーム朝風

自己評価	外部評価	項目	自己評価(朝風Ⅱ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けの手伝いをしてもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月の栄養加算会議で立花病院管理栄養士に相談している。食事量が少ない方については主治医に相談し、補助食品を処方してもらうなど対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアをしている。自立度に合わせて声掛け、見守り、介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄間隔を考えながらトイレ誘導している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や水分補給(1日1000mℓ目標)支援している。必要に応じて、薬を処方してもらっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回曜日の設定はしているが、体調不良時や入浴拒否がある時は日にちを変更するなど柔軟に対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の就寝時間に合わせて支援している。日中でも眠そうな時などは、休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋はすぐに確認できるようファイリングしている。配薬表を作成しており、何袋、何錠なのか都度確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の盛り付けや洗濯たたみ等、利用者が出来る事を役割と担っている。塗り絵を季節の飾りとし壁面に貼ると、喜ばれている。		

グループホーム朝風

自己評価	外部評価	項目	自己評価(朝風Ⅱ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出レクでさとらんど、小樽フェリー乗り場に出かけている。外泊や外出できるように支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額お金を所持している方もいる。必要な日用品は都度購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人、ご家族の希望で電話で話せるよう支援している。手紙を書ける方には書いてもらい、郵送の支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室、トイレ、浴室は分かりやすく貼り紙している。季節ごとの飾りや写真を貼っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや食席はコミュニケーション取りやすいように配慮している。一人になりたい時は、食席に座って新聞を読んだりして過ごされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の馴染みの家具や衣類、写真、ぬいぐるみを持参して頂き、心地よく過ごせるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室に手すりがついている。トイレは分かりやすく張り紙をしている。迷いが見られるときは、声掛け、見守りしながらできる事はしてもらっている。		